



“地域のことは地域で考えよう”

2018年4月26日

おきぎん県内景況・速報 2018年3月

一県内景況は、拡大している一

■個人消費

スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。
百貨店売上高は前年同月を下回る。
家電卸出荷額は前年同月を上回り、新車販売台数は下回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を上回る。
生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も上回る。
ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回る。

■企業倒産

件数、負債総額はともに前年同月を下回る。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2018年3月分)

◎2018年3月 おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

3月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに、前年同月を上回りました。百貨店売上高は食料品や家庭用品などが伸びず、前年同月を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、冷蔵庫、洗濯機が伸び、前年同月を上回りました。新車販売台数は、普通乗用車や小型乗用車などが伸びず、前年同月を下回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、国や沖縄県発注工事の増加などで前年同月を上回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を上回りました。

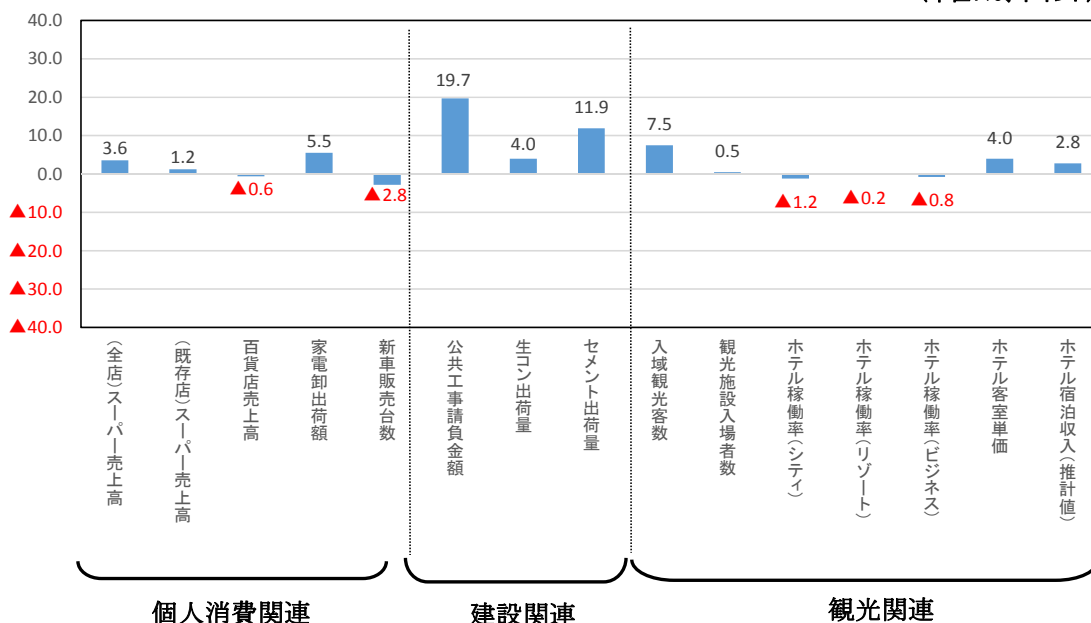
観光関連では、入域観光客数は66ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数も前年同月を上回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回りました。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも好調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から50ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比

(単位：%、ポイント)



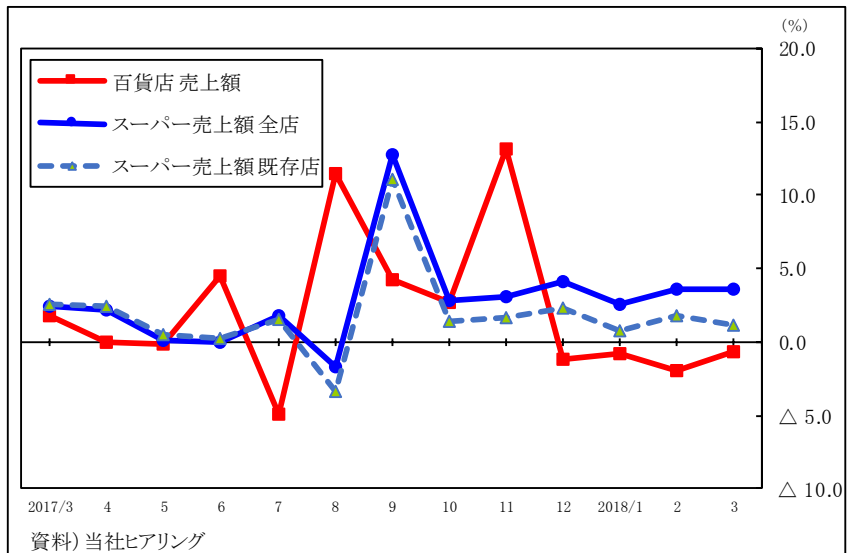


■ 個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。百貨店売上高は前年同月を下回る。

単位：%

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2017/3	2.4	2.6	1.8
4	2.2	2.4	△ 0.02
5	0.1	0.5	△ 0.1
6	△ 0.03	0.2	4.5
7	1.8	1.5	△ 4.9
8	△ 1.7	△ 3.4	11.5
9	12.8	11.1	4.2
10	2.8	1.4	2.7
11	3.1	1.7	13.2
12	4.1	2.3	△ 1.2
2018/1	2.6	0.8	△ 0.8
2	3.6	1.8	△ 1.9
3	3.6	1.2	△ 0.6



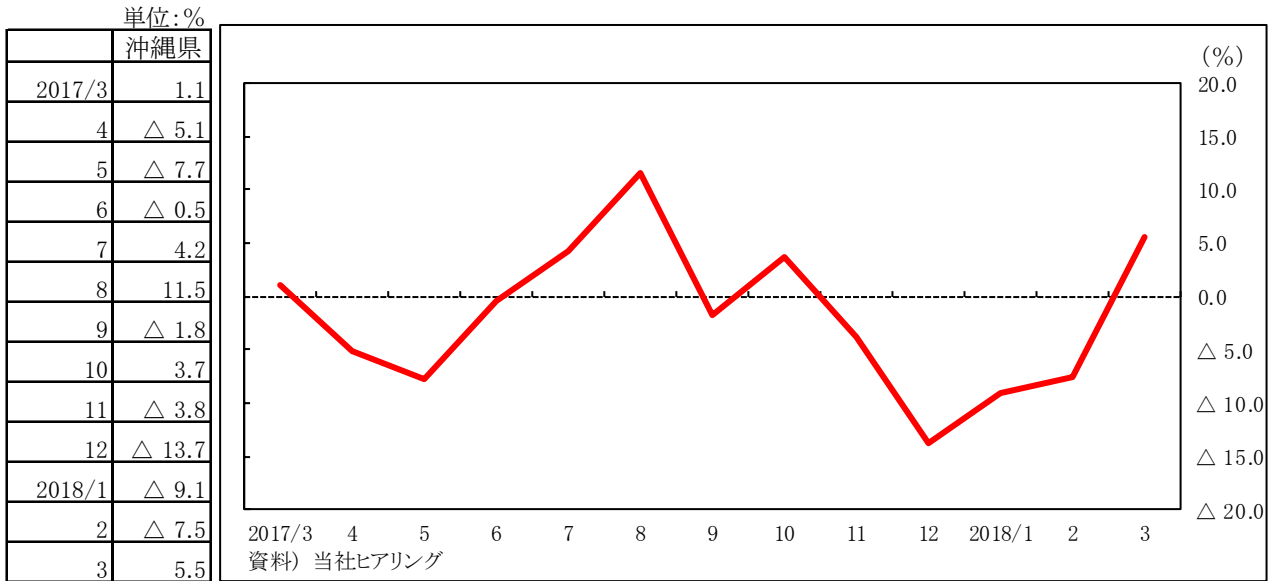
注) 前年同月比

3月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 3.6%増)」は、新規出店効果などにより、「食料品(同 3.3%増)」、「家庭用品(同 4.8%増)」などの売上が伸び、7ヵ月連続で前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同 1.2%増)」は、7ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、ウェイトの高い「食料品(同 0.6%増)」は、野菜価格の低下が見られたものの、旧暦行事(1月16日)が、3月に後ずれしたことなどから、精肉や鮮魚などの需要が堅調に推移し、前年同月を上回りました。「衣料品(同 2.5%増)」は、昨年に比べ気温が高く推移したことなどから、かりゆしウェアなど、春・夏物商材の売れ行きが伸び、前年同月を上回りました。また、家電や雑貨など「家庭用品(同 2.8%増)」は、インバウンド需要が堅調に推移し、前年同月を上回りました。

百貨店売上高は、食料品や家庭用品などが伸びず、4ヵ月連続で前年同月を下回りました(同 0.6%減)。内訳をみると、ウェイトの高い「衣料品(同 1.2%増)」は、卒業・入学シーズンの需要増加や、前年に比べ気温が高く推移したことなどから、春・夏物商材の売れ行きが好調に推移し、「紳士服(同 5.2%増)」、「婦人服(同 0.7%増)」、「子供服(同 7.4%増)」が前年同月を上回りました。また、「雑貨(同 13.8%増)」は、インバウンド需要の増加などにより前年同月を上回りました。一方で、「食料品(同 13.2%減)」、「家庭用品(同 30.4%減)」は、前年にあった催事が未開催となったことなどから、前年同月を下回りました。

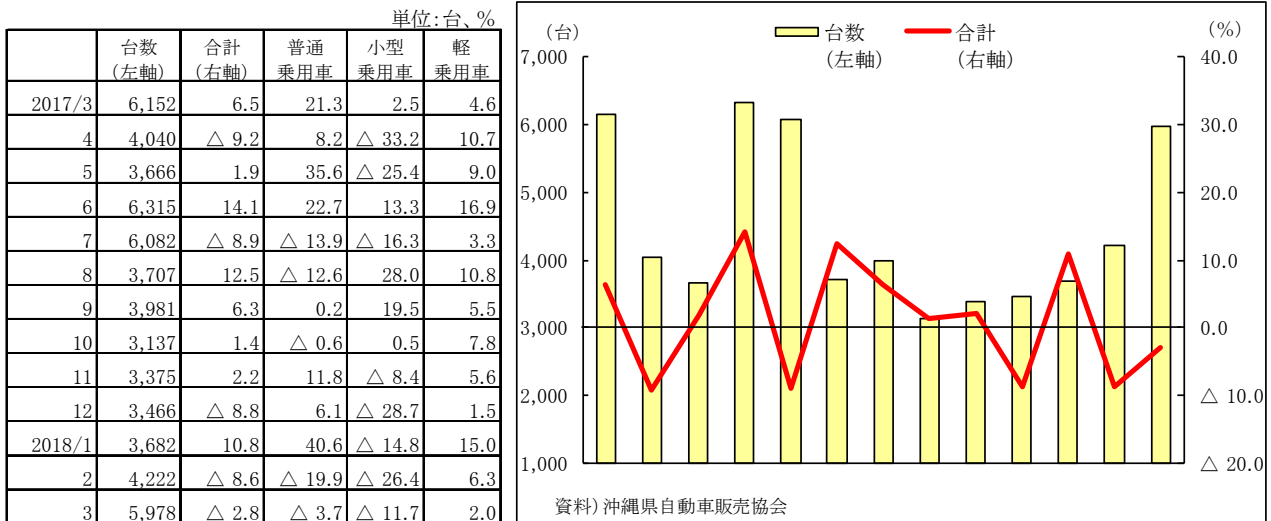
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は5ヵ月ぶりに前年同月を上回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、冷蔵庫、洗濯機、エアコンなどの売れ行きが伸び、5ヵ月ぶりに前年同月を上回りました(同5.5%増)。品目別では、「冷蔵庫(同23.7%増)」、「洗濯機(同17.5%増)」は、前年に落ちた反動から大きく伸びました。また、「エアコン(同2.8%増)」は、省エネタイプや新機能を付加した高価格帯商品が伸び、前年同月を上回りました。一方で、「テレビ(同7.5%減)」は、4Kなど高価格帯商品の売れ行きが伸びず、前年同月を下回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、2ヵ月連続で前年同月を下回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

新車販売台数は、全体で5,978台(同2.8%減)となり、2ヵ月連続で前年同月を下回りました。車種別では、「軽乗用車(同2.0%増)」は、需要が堅調に推移し、13ヵ月連続で前年同月を上回りました。一方、「普通乗用車(同3.7%減)」、「小型乗用車(同11.7%減)」は、前年にレンタカー需要の増加により伸びた反動などから、前年同月を下回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

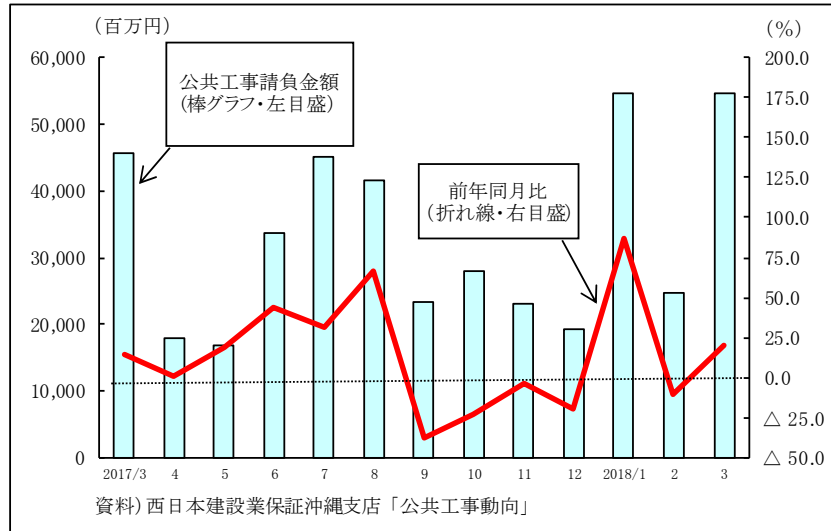


■ 建設関連： (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を上回る。

単位:百万円、%

	請負金額	前年同月比
2017/3	45,553	14.0
4	17,823	0.7
5	16,886	18.4
6	33,703	43.9
7	45,031	31.8
8	41,576	66.3
9	23,363	△38.3
10	28,073	△23.5
11	23,134	△3.7
12	19,275	△19.4
2018/1	54,569	87.2
2	24,674	△10.3
3	54,532	19.7

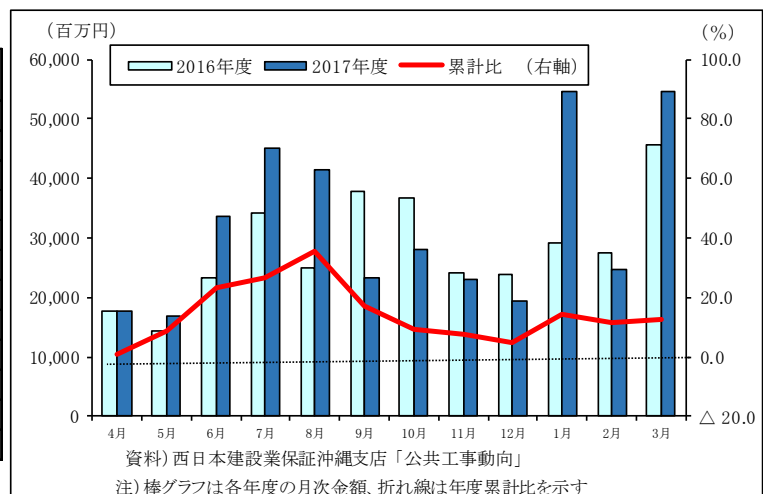


3月の**公共工事請負金額**は、前年同月比19.7%増の545億3,200万円となりました(2ヵ月ぶり増)。発注者別でみると、「国(同186.2%増)」は沖縄防衛局のシュラブ埋立工事などの大型工事、「沖縄県(同44.3%増)」は、都市モノレール関連工事などの大型工事の前年同月を上回りました。一方で、「独立行政法人等(同20.0%減)」は件数や金額とも減少したこと、「市町村(同62.8%減)」は前年多かった大型工事などの反動、「その他の公共的団体(同88.0%減)」は前年あった沖縄科学技術大学院大学関連工事などの大型工事の反動などで下回りました。

【参考】公共工事(年度累計)・・・公共工事請負金額は前年同期を上回る。

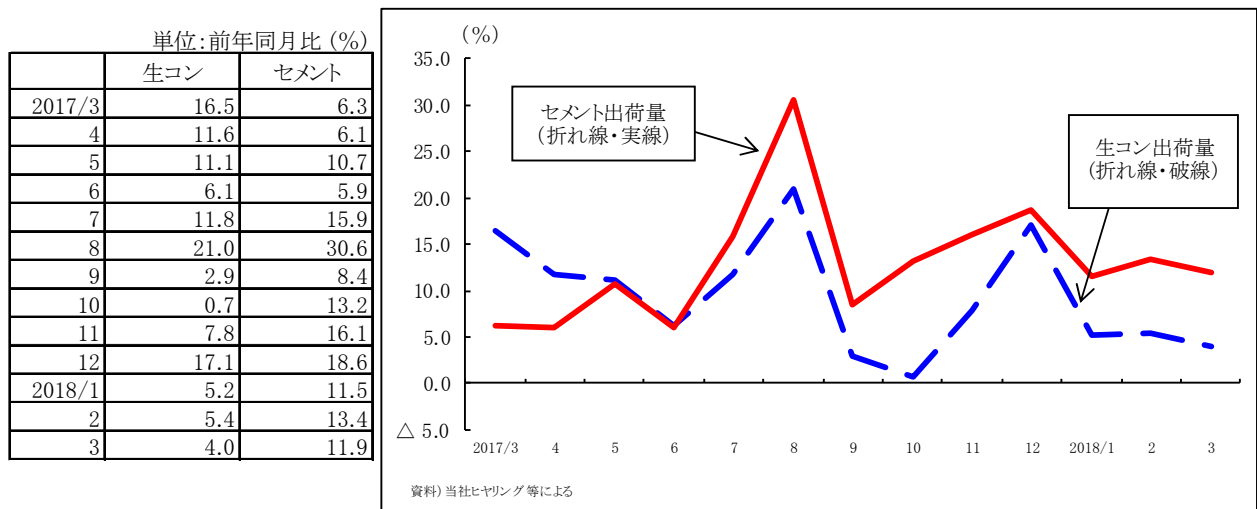
単位:百万円、%

	2016年度	2017年度	累計比(右軸)
4月	17,690	17,823	0.7
5月	14,261	16,886	8.6
6月	23,421	33,703	23.5
7月	34,156	45,031	26.7
8月	24,997	41,576	35.4
9月	37,867	23,363	17.1
10月	36,683	28,073	9.2
11月	24,026	23,134	7.7
12月	23,920	19,275	5.0
1月	29,148	54,569	14.0
2月	27,499	24,674	11.7
3月	45,553	54,532	12.8



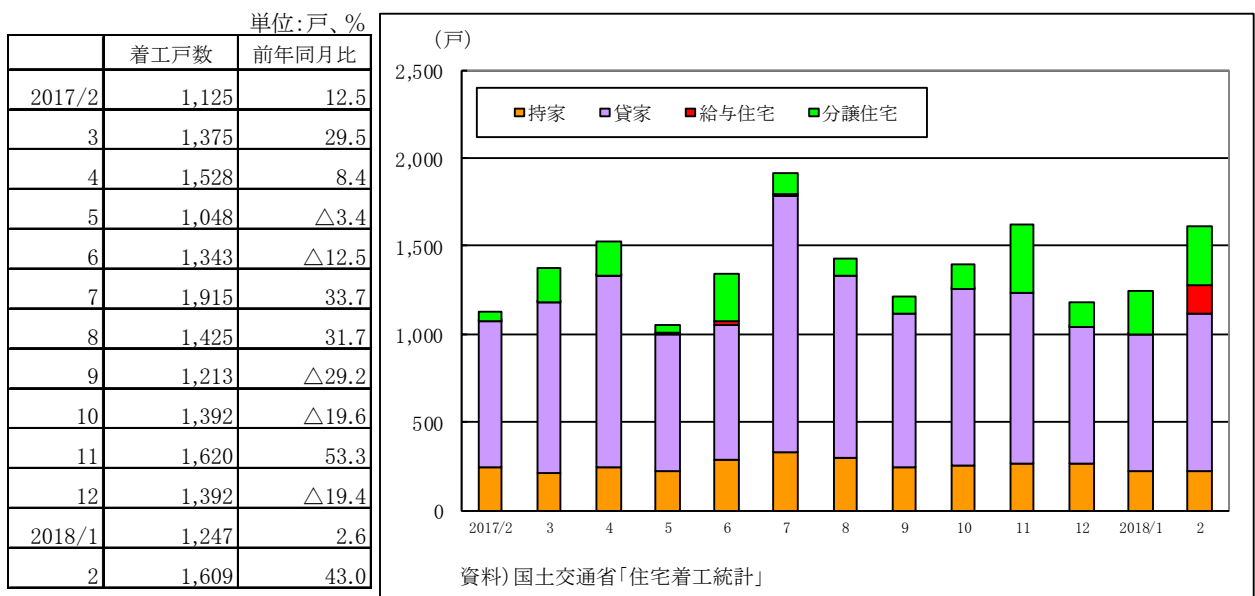
今年度4月～2018年3月までの累計を前年度同期と比較すると、12.8%増となっています。(上記折れ線グラフ)

②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を上回る。



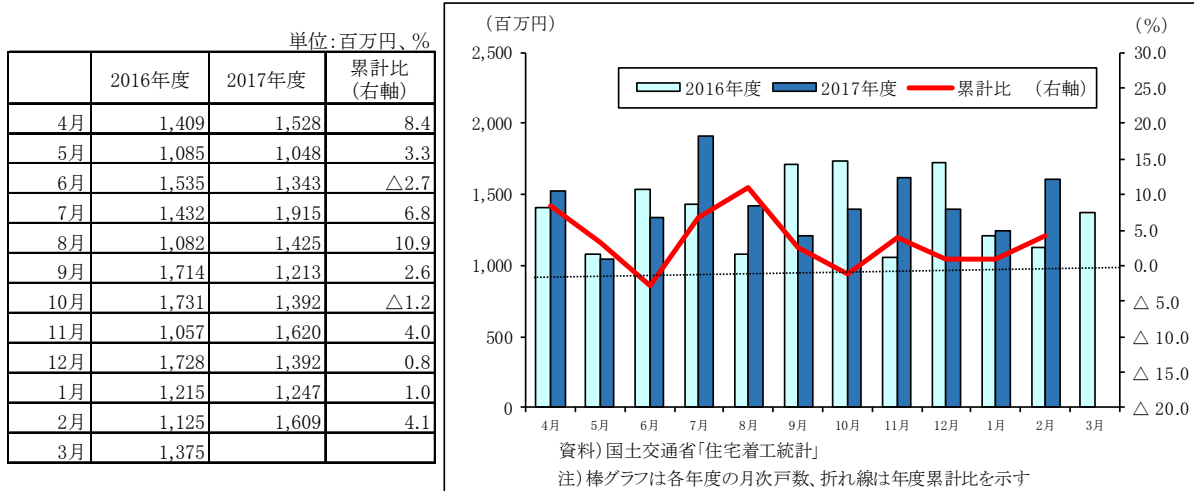
建設資材関連では、生コンの出荷量は4.0%増と13ヵ月連続で前年同月を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より23.1%下回ったものの、民間工事向け出荷が21.3%上回りました。セメント出荷量は11.9%増と16ヵ月連続で前年同月を上回りました。

【参考】住宅投資(2月)・・・着工戸数は前年同月を上回る。



新設住宅着工戸数(2月)は、全体で前年同月比43.0%増の1,609戸と2ヵ月連続で前年同月を上回りました。利用別戸数をみると、「持家(同7.9%減)」は前年同月を下回りましたが、ウエイトの高い「貸家(同7.9%増)」や「給与住宅(81倍:2戸→162戸)」、「分譲住宅(同496.4%増)」は上回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）・・・着工戸数は前年同期を上回る。



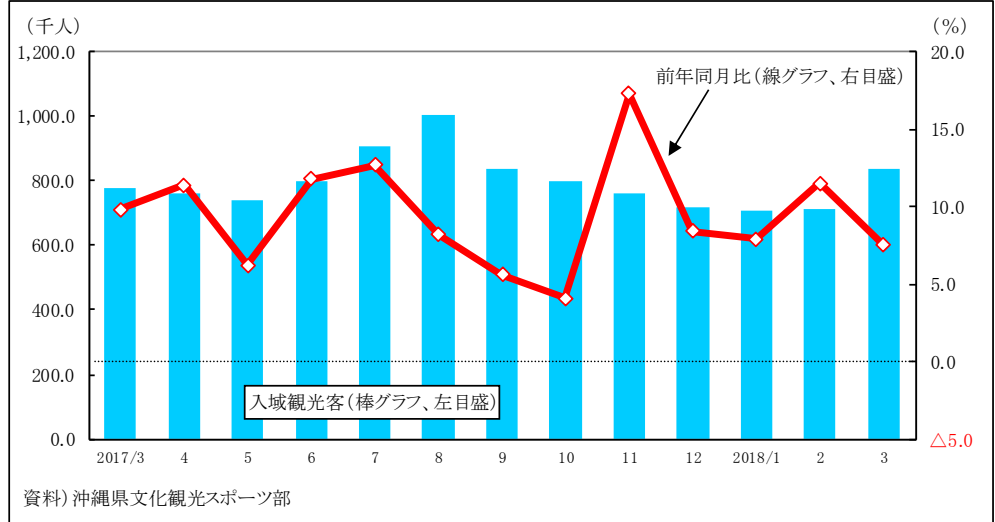
年度累計でみると、4.1%増となっています。(上記折れ線グラフ)



■観光関連： (良い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・66ヵ月連続で前年同月を上回る。

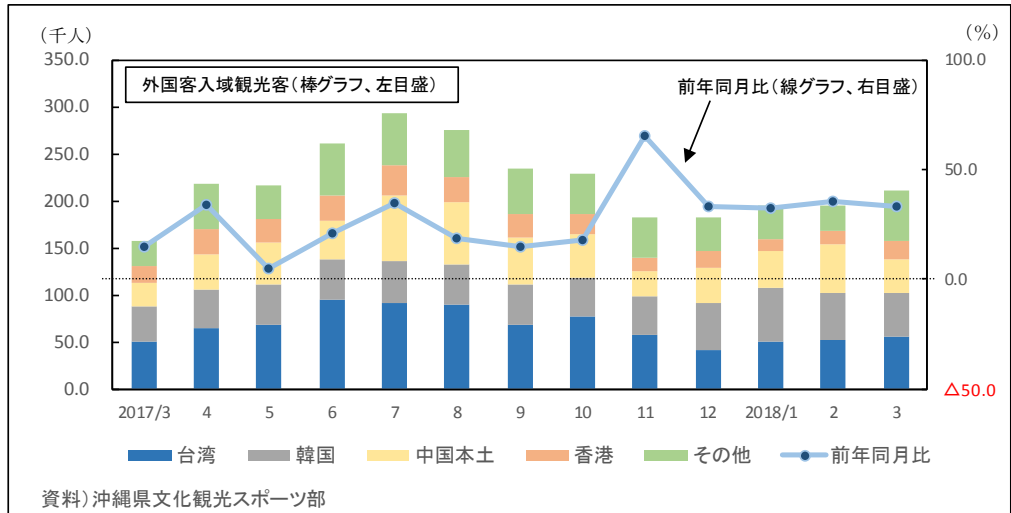
単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2017/3	778.5	9.8
4	759.2	11.4
5	740.6	6.2
6	798.8	11.8
7	907.9	12.7
8	1,002.5	8.2
9	837.1	5.6
10	799.3	4.1
11	762.9	17.3
12	718.5	8.4
2018/1	704.3	7.9
2	711.4	11.5
3	836.5	7.5



※外国客は乗務員等を含む

外国客 入域観光客数・・・13ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2017/3	158.4	14.9
4	217.6	34.2
5	216.8	5.0
6	261.5	21.1
7	292.7	34.7
8	275.7	18.8
9	233.5	14.8
10	229.2	17.7
11	182.4	65.5
12	183.1	33.5
2018/1	194.4	32.1
2	194.8	35.2
3	210.3	32.8



※外国客は乗務員等を含む

3月の入域観光客数は、58,000人多い836,500人(前年同月比7.5%増)となり、66ヵ月連続で前年同月を上回りました(3月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同1.0%増)」は626,200人と、春休みによる旅行需要の高まりや、航空会社による販売取組の強化(先行割引航空券の販売)等により、離島路線を中心に入込が好調に推移したことなどから、5ヵ月連続で前年同月を上回りました。

他方、「外国客(同32.8%増)」は、210,300人と13ヵ月連続で前年同月を上回りました。航空路線の拡充(運航再開、増便等含む)や機材大型化、クルーズ船の寄港回数増加等により空路・海路ともに好調に推移したことなどから、前年同月を上回りました。

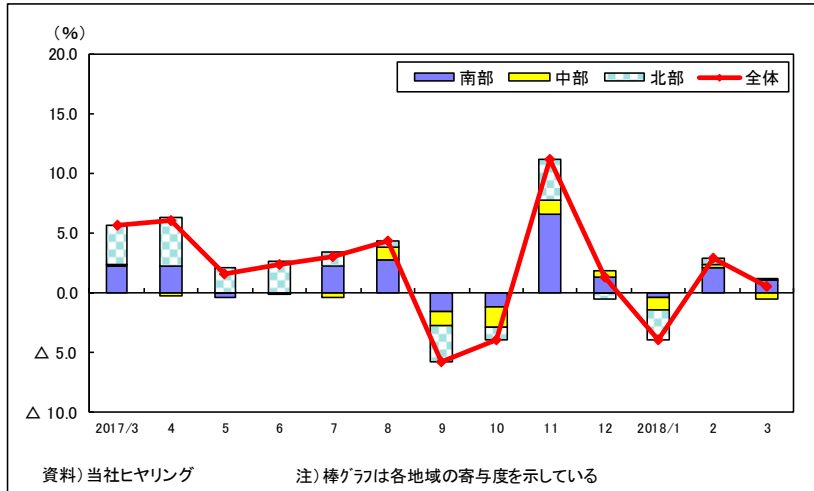
「台湾(同11.6%増)」「韓国(同23.9%増)」「中国本土(同41.5%増)」「香港(同10.1%増)」

※乗務員等を除く2018年3月実績＝全体814,200人(同6.4%増)、外国客188,000人(同29.6%増)、国内客は変わらない。

② 観光施設入場者数・・・2ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2017/3	5.6	5.6	1.6	6.7
4	6.1	5.8	△1.8	8.5
5	1.5	△1.2	0.04	4.2
6	2.4	△0.1	△1.3	5.0
7	3.0	6.7	△3.9	2.2
8	4.3	8.1	9.7	1.0
9	△5.8	△4.7	△10.5	△5.6
10	△4.0	△3.1	△14.5	△2.0
11	11.1	15.7	9.7	7.3
12	1.2	3.2	3.2	△1.2
2018/1	△4.0	△1.2	△7.7	△5.1
2	2.9	5.6	r 1.8	1.2
3	0.5	2.6	△4.4	0.1



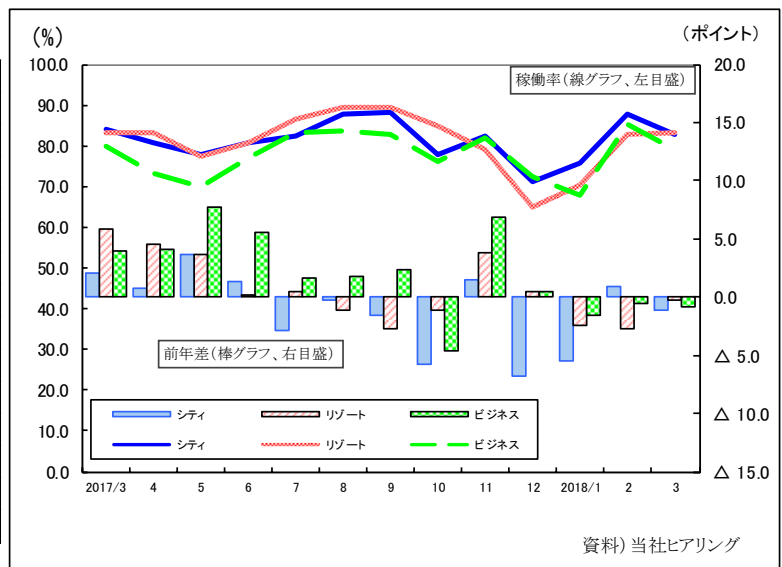
※調査対象施設数=南部6、中部6、北部5施設
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より 0.5%増加(2ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同 2.6%増と2ヵ月連続、北部は同 0.1%増と2ヵ月連続で前年同月を上回り、中部は同 4.4%減と2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

③ ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2017/3	r 84.0	r 83.2	79.8	2.0	r 5.9	3.9
4	80.9	83.1	73.4	r 0.7	4.6	4.1
5	r 77.6	77.2	69.9	3.6	3.7	7.7
6	r 80.5	80.8	76.9	r 1.4	0.1	5.6
7	r 82.2	86.6	83.0	r △2.9	0.4	1.7
8	87.6	89.4	83.8	r △0.2	△1.1	1.8
9	r 88.0	89.3	82.8	r △1.5	△2.8	2.4
10	r 77.6	84.9	76.3	r △5.8	△1.1	△4.6
11	r 82.4	78.9	81.8	r 1.5	3.8	6.8
12	r 71.2	65.0	72.5	r △6.8	0.5	0.5
2018/1	75.8	70.5	68.0	△5.5	△2.4	△1.6
2	87.8	82.8	85.2	0.9	△2.7	△0.5
3	82.8	83.0	79.0	△1.2	△0.2	△0.8



注) シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス7ホテル

注) 2018年1月より、シティホテル対象施設数に変更(9⇒8)となったことから、2017年1月以降の数値を遡って改定した。

注) 2016年4月より、リゾートホテル対象施設数に変更(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

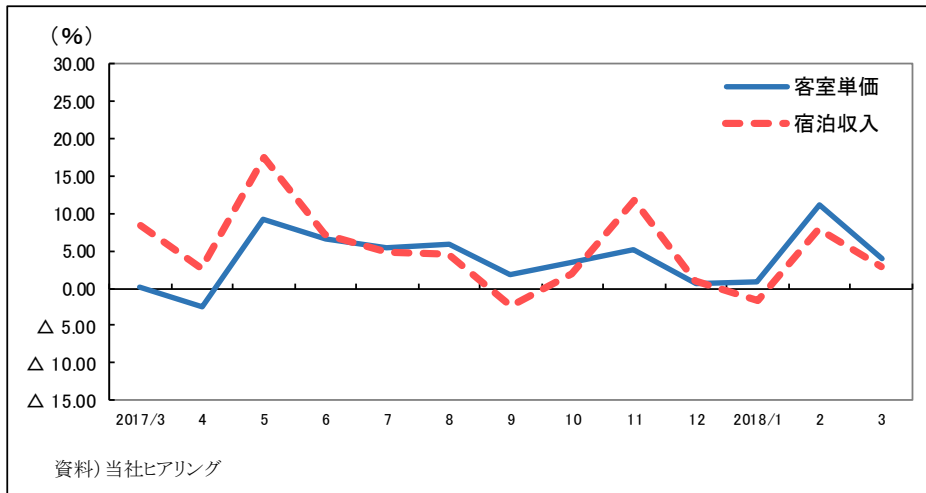
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが 82.8%と 1.2 ポイント減少(2ヵ月ぶり)、リゾートホテルが 83.0%と 0.2 ポイント減少(3ヵ月連続)、ビジネスホテルが 79.0%と 0.8 ポイント減少(3ヵ月連続)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入も上回る。

単位:%

	客室単価	宿泊収入
2017/3	r 0.04	r 8.4
4	△2.6	r 2.7
5	r 9.3	r 17.4
6	r 6.5	r 7.3
7	r 5.3	r 4.9
8	r 6.0	r 4.5
9	r 1.7	r △2.3
10	r 3.4	r 1.9
11	r 5.2	r 11.8
12	r 0.6	r 0.9
2018/1	0.8	△1.7
2	11.1	7.9
3	4.0	2.8



※対象施設数:26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※2018年1月より、シティホテル対象施設数が変更(9⇒8)となったことから、2017年1月以降の数値を遡って改定した。

※2016年4月より、リゾートホテル対象施設数が変更(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

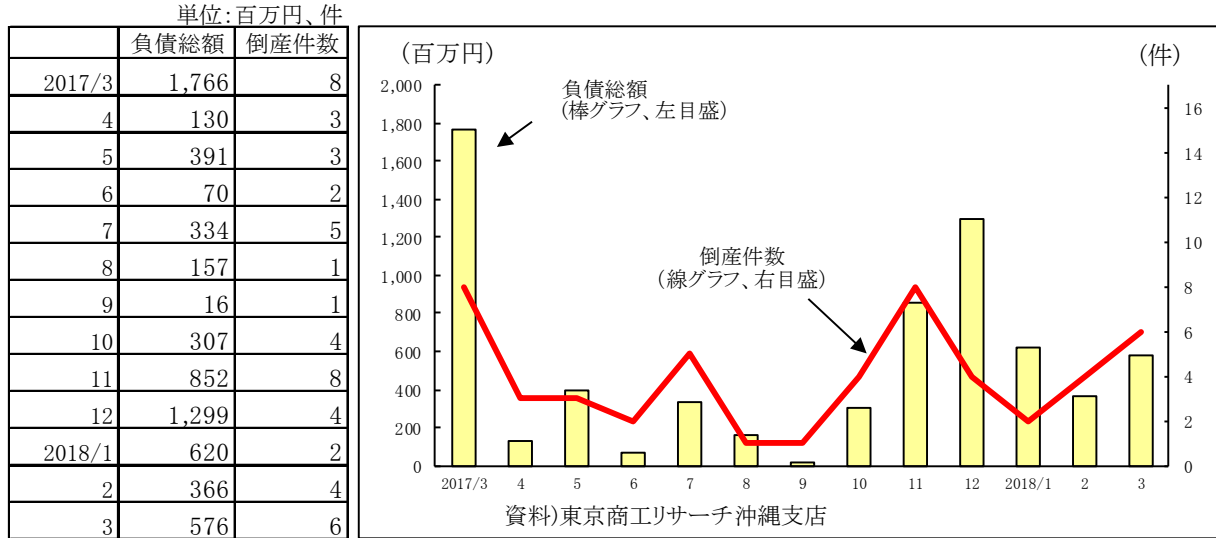
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 4.0%増と前年同月を上回りました。**宿泊収入**も同2.8%増と前年同月を上回りました。



■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を下回る。

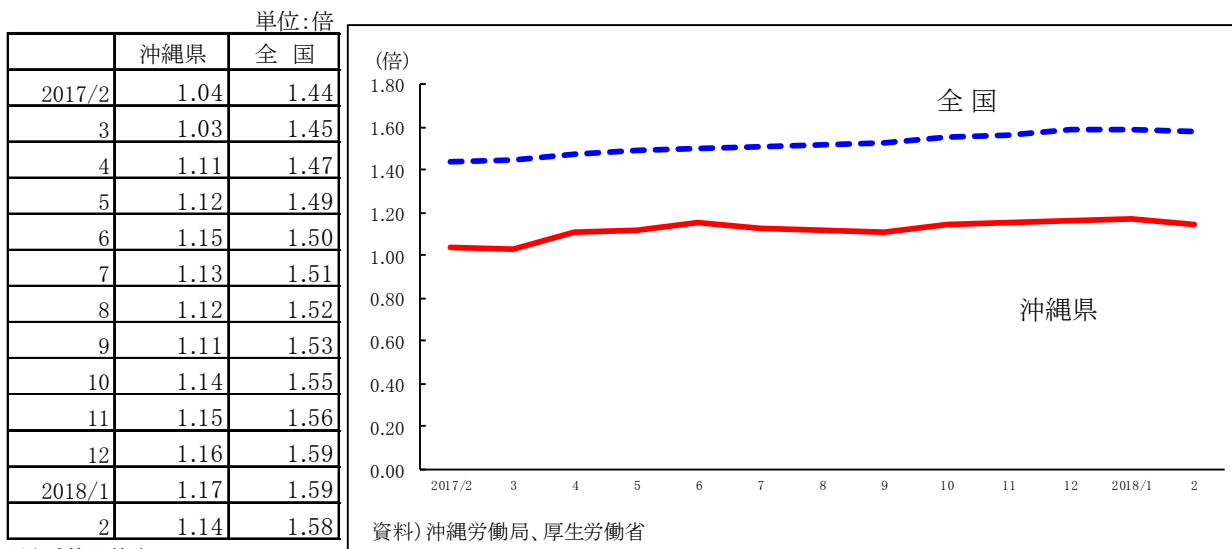


3月の企業倒産件数は、6件(うち大口倒産は1件)となり、同25.0%減と前年同月を下回りました。
負債総額は5億7,600万円となり、前年同月より67.4%減少しました。



【参考】雇用関連： (良い)

有効求人倍率(2月)・・・沖縄、全国はともに前月より低下。



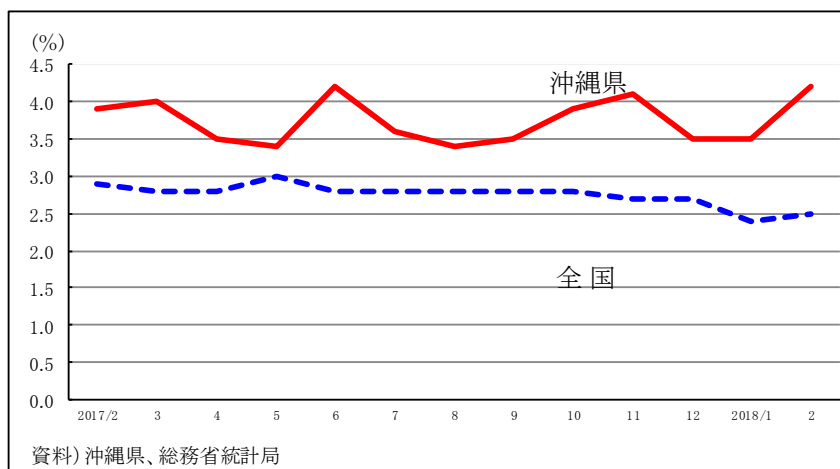
注)季節調整済

2月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比1.1%減の28,884人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比1.3%増の25,338人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.14倍となり前月より0.03ポイント低下しました。

完全失業率（2月）・・・沖縄、全国はともに前月より上昇。

	単位:倍	
	沖縄県	全国
2017/2	3.9	2.9
3	4.0	2.8
4	3.5	2.8
5	3.4	3.0
6	4.2	2.8
7	3.6	2.8
8	3.4	2.8
9	3.5	2.8
10	3.9	2.8
11	4.1	2.7
12	3.5	2.7
2018/1	3.5	2.4
2	4.2	2.5

注) 季節調整済



2月の完全失業率(季節調整値)は、4.2%となり前月より0.7ポイント上昇しました。